

「おむすびの大切さ」

大野 紗也夏

私は、「食べ物大切さ」を、とても感じることかできました。

今日の「おむすびワークショップ」では、
こと先生が「言っていたことが、とても印象的でした」

それは、「お米も、生きているから、やさしく、つぶれないように、にきってねい」や「おむすびを、作る時に、こぼれてしまった

お米は、捨てないでね」などの言葉です。

その言葉からは、大切に育てた人のあたたかい気持ちがたくさんつまっていると思いました。

そして、その先生の言葉と「作りました。すると、いつものおむすびの味より、とてもおいしかつたです。そのことを先生に言うと、「作る人の気持ちで、味が変わるんだよ」や「友達と自分の味を比べると、少しちがって感じるよ」と言われたので、友達と

おむすびを交かんしてみました。
すると、とてもおいしかったけれど、それ
も、ちがう味がしました。

それは、そのおむすびには、その友達の気
持ちがつかまっていて、思いました。それを知
ってとても、おどろきました。

先生が作ったおむすびを一つもらいました。
そのおむすびは、とても、形がきれいで、味
も、すごくおいしかったです。

先生にもらったおむすびを半分に、手で切
りました。そして、包丁できったように、
きれいに切れました。けれど、中が、かたいわ
けではなく、とてもやわらかくて、とてもお
どろきました。けれど、自分が作ったものは、
ぼろぼろと落ちてきてしまいました。

私は、先生が作ったおむすびがなぜ、そう
なるんだろうと不思議になりました。
けれど、私も2個目になると、少しずつ、
うまく作れるようになってきました。

そして、3個目は、先生に、私が作ったも

のを食べてもらいました。すると、
上手い、とほめられました。とてもうれしかっ
たです。

今日のおむすび、クニヨツプを生かして、
、こ水からも食べ物大切にしていき、先生
が言、たことを忘れないように、家に帰、た
ら、もう一度作り、家族に、その作り方を教
えたいです。